

巻頭言—「教師の生き方」の教育力

教職課程センター副センター長（東海分室） 藤井啓之

自分とわが子、親戚とその子ども、あるいは地域活動で関わった親子などを見ていると、親子がとても似ていることに気づく。容姿が似ているというのは当たり前。ここで言及しているのは、容姿のことではなく、行動のパターンやものの見方・考え方などのことである。行動や考え方が似ているというのは、遺伝的な要因を全否定することはできないにしても、おそらく後天的に獲得された要因が大きいだろう。子どもは親の行動、人や出来事への反応を観察し、真似をする。だから似てくるのではないか。もちろん、思春期以降、親を反面教師として、親とは異なる行動、ものの見方・考え方を選び取る場合もあるが、それはかなりの努力を要するものとなる。

他方、子どもは、遅くとも小学校になると学校という世界に入ってくるのであるから、同居している大人ほどではないにせよ、子どもたちは教師の行動のパターンやものの見方・考え方からも少なからぬ影響を受けることになる。やや大げさに言えば、教師の一挙手一投足が子どもたちの行動様式や思考様式をある程度、規定することになる。つまり、教師の生き方は子どもたちを教育するということだ。

では、子どもたちに良い影響を与えるために、教師はどのような行動様式や思考様式を身につけるべきなのか。それは、端的に言えば真理・真実を見極めようとする、つまり、何事も当たり前だといって済ませず、本当にそうかどうか疑うこと、もっとよい方法はないかと考えること、そのために、常に学び続けることではないだろうか。「学校の規則だから守るのが当然。教科書に書いてあるから正しい。地位ある人が話しているのだから正しい」、教師がそのような思考停止の態度を取れば、多くの子どもは「考えなくてもよいのだ」、と思考を

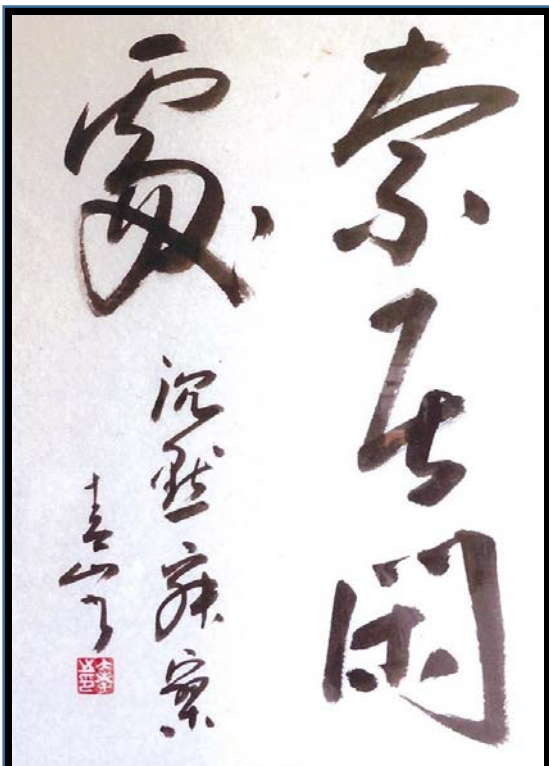
止めてしまうだろう。もちろん、それこそ教師を反面教師にする子どもがいらないわけではないが、わざわざそのようなリスクを冒す必要はない。子どもたちを賢く育てることを使命とする教師は、「疑い、自ら考え、調べ、学ぶことをやめない」姿を子どもに見せる必要があるのではないか。学生がこのような姿勢を身につけることができるよう、教員養成を担う大学教員も、授業の内外で疑い、考え、学ぶことが必要になる。

さくきょかんじょ ちんもくせきりょう

「索居閑處 沈黙 寂寥」

教職課程センター副センター長（美浜） 大和田孝士

左記の書は「千字文」にみえる句で、「閑静なところに隠棲して心静かに過ごし、言葉かずは少なく、落ち着いて物静かに暮らす」という意（千字文小川環樹・木田章義注解）です。



大和田青山（孝士）書

フィールドワーク研修を終えて

子ども発達学部 子ども発達学科 学校教育専修3年 北中清子

今年度のフィールドワークでは京都府を訪れ、平等院鳳凰堂、醍醐寺、清水寺を観光するプランを計画しました。今回の学習で一番の目的は、「教科書に載っている建造物や文化財を実際に見ること」でした。参加者は、事前学習として今回の見学先について調べ、当日のバス内で発表をしました。こうした活動を取り入れることにより現地では何を見るべきかを明確にし、一人ひとりが目的意識をもって参加することができたと思います。私自身、建造物や文化財を実際に見ることと資料で見るだけの知識とでは感じるものも大きく異なることを実感しました。今回の企画に参加し、観光では訪れない場所を見ることができたことは、将来自分が教育する上での貴重な糧となりました。

反省点としては、移動に多くの時間がとられ、見学時間が少なく慌ただしい日程になってしまったことが挙げられます。紅葉のシーズンであったこともあり、交通状況や現地の訪問者数が大幅に増加してしまい、計画通りに見学をすることができませんでした。当日は現地状況を把握し、その場の状況を見て随時計画を変更しつつ行動指示を出していましたが、結果として見学時間を十分に確保できませんでした。参加者が十分な学習をすることができるためにも、見学希望より時間に余裕の持てる計画を最優先に考えるべきであったと思います。



時間の変更など課題はたくさん残る企画となりましたが、最後には参加者からの「楽しかった」という声を聴くことができたことを嬉しく思います。



京都へ

子ども発達学部

小林しんじ

秋の朝日が
観光バスを照らしている

京都への
フィールドワーク

はずむ足取りで
宇治の平等院の
紅葉の庭園に

そびえ立つ
朱色の建造物
天高く黄金の鳳凰
を前に記念写真

バスは
世界遺産の
醍醐寺へ
広がる庭園が
一時の安らぎを
醸しだしている

清水寺は人であふれ
参道はまるで年の市

秋の夕日に包まれて
帰りのバスが心地よい





合格体験記

国際福祉開発学部 国際福祉開発学科 4年 阿部智弘

私が、教員になるために努力したことは、試験に合格するための勉強をするということはもちろんですが、日頃の授業の中で先生に教えてもらった教員として大切なことや、教員としてあるべき姿勢を大学生活の中でも取り入れて生活をするのでした。教員としてあるべき姿勢とは、「生徒の前では、常に明るく生活をする」ということであり、このことは、大学生の自分でも、意識するだけで改善できると考え、友達の前では常に明るくしようと実践しました。これを実践するだけで、教員採用試験に合格するということが当然あり得ません。しかし、教員採用試験の面接試験では、緊張から自分のことを精一杯アピールすることが難しいので、日頃の生活において明るく生活することで、面接でも明るく受け答えができ、練習通り、自分をアピールすることができたと思っています。

試験に合格するための勉強では、過去問を解き進めることから始めましたが、最初、過去問を解いた時には、正答率は50%もなく、手も足も出ないような状態でした。しかし、単語力不足が原因で理解困難な文章と、文法そのものが分からず理解できない文章の2つのパターンがありました。文法が分からない場合は、分からない文法箇所がどこなのか容易に分かるので、参考書等を活用して解決しましたが、単語力不足の場合は、長文読解で出てきた分からない単語をしっかりと覚えるように復習に力を入れて、単語力増強を図りました。

このような勉強方法で進めていくと、最初は50%も正解できなかった過去問がだんだんと60%、70%と正解できるようになっていきました。

正直、私は今までの人生の中で、勉強面で努力をしたことはありませんでした。私は勉強ではなく、野球部に入っていたことで毎日野球ばかりしていました。しかし、3年次に履修した「国際協働インターンシップ」で、実際に高等学校に行き、教員の授業以外の仕事を数多く体験しました。その時に、それらの仕事は大変で、自分自身がとても忙しいと感じたのですが、やりがいがあるとも感じました。また、このインターンシップを通して、「自分は教員として何ができるのだろうか」と考えることで高いモチベーションを継続して持ち続けることができていました。インターンシップを機に、教員という仕事がとても楽しいということに気づき、採用試験前の辛い試験対策、面接練習に耐え、自主的に継続して机に向かうことができたのだと思います。

試験は、誰もが嫌いなものではありますが、その中でも、強い意志や、向上心がモチベーションになれば、継続して勉強ができると思います。



これから、教員採用試験を受験する後輩のみなさんには、「試験に合格しないといけない」などのように自分にプレッシャーをかけながら勉強するのではなく、「合格したら、インターンシップのような仕事ができる」、「自分の夢が叶う」などとポジティブに考えながら、勉強することが大切であると思います。自分の夢に向かって、今のうちから、精一杯やれることから、始めてほしいと思います。



合格体験記

子ども発達学部 心理臨床学科 4年 望月隆寿



1. テキスト

Build up 実戦演習ノート、CDP 過去問、特別支援教育過去問、中学校社会科教科書(地歴公民)、学習指導要領(社会科、特別支援教育)

2. 受験勉強の工夫

受験勉強を行うにあたり主に3つの工夫をしました。1つ目は、友達と勉強をすること。友達と勉強することのメリットは、第一にモチベーションを維持することができること。第二に、不得意な部分も友達に教えたり、教えてもらうことで克服することができること。この他にも様々なメリットがあると私は感じました。2つ目は、規則正しい生活をする。私は受験勉強の期間、毎朝7時に必ず起き、夜12時には寝るという習慣を作りました。これは、受験の際のスケジュールの事を考えて実施しました。そのおかげで、受験の時に朝から頭をフル回転させ、焦らず試験に臨むことができたと思います。3つ目は、自分なりの勉強スタイルを作ること。この3つ目の工夫が一番大事だと思います！！

3. モチベーションを維持する方法

- ・友達と課題を出し合う
- ・自分なりの目標をいつも目の届く場所に貼っておく。

4. 面接、集団討論、小論文対策

○面接→自分のことを知るために、友達や家族に自分のことを聞きました。また、面接ノートを作り、友達の意見なども聞きながら適宜修正を行いました。面接ノートは去年合格された先輩から進められて、作るようにしましたが、面接以外でも生かせる場面があったため、作るべきだと思います。

○集団討論→過去に出された問題を見て、自分なりの答えを面接ノートに書き出す。あとはとにかく友達と練習を繰り返す！

○小論文→受験自治の形式を知る。(字数や時間、縦書きか横書きかなど。)問題を解き、先生方や卒業生、友達、親に添削してもらい、その後もう一度同じ問題を解きなおす。

5. メッセージ

受験勉強の期間は、正直に言うともとても大変でした。しかし、みんなの周りには同じ教員を目指す素敵な仲間がいると思います。私が今年の教員採用試験を突破することができたのも仲間の存在があったからです。仲間と切磋琢磨し合い、受験の時までモチベーションを維持することで乗り越えることができます！まだ時間はたくさん残っています。とりあえず自分なりの勉強スタイルをまだ見つけていない人は見つけてください！！



合格体験発表会

子ども発達学部 子ども発達学科 学校教育専修3年 山田優季

合格体験発表会では、実際に教員採用試験に合格した先輩方からたくさんの貴重なお話を聞くことができ、将来、教員を目指す私たちにとってとても良い機会になりました。

そろそろ本格的に採用試験に向けた勉強をしていかなければならない時期となりましたが、正直、どのように勉強を進めていけば良いのか、面接対策はどのようにすれば良いのか等、分からないことだらけでした。そのような中で、先輩方がいつから、どのように対策を進めていたのか話を聞くことができ、焦りとともに、とても参考になりました。合格を目指すにあたって、まずは自分の受験する自治体の問題を分析し、その自治体に合った対策をしていくことが重要であるということが分かりました。これまでただ何となく勉強を進めていましたが、しっかりと目標を持ち、具体的な見通しを持って勉強するべきであると感じました。そして「自分がどのような教員になりたいのか」「なぜ教員を目指すのか」をもう一度改めて考えるきっかけとなりました。

また、多くの先輩が、採用試験の合格のためには周りの友人と共に協力して勉強することが大切であると話していたことが印象に残っています。周りには、同じく教員を目指す友人がたくさんいます。分からない問題を聞くだけでなく、一緒に面接対策をしたり、時には相談しあったり、互いに切磋琢磨していくことが大切であると感じました。

今回の発表会で、教員になりたいという意識が高まった人が多いと思います。残りの大学生活では、日々の勉強はもちろん、たくさんのかたちを経験して成長していきたいです。先輩方が話してくれたことを参考にし、教員採用試験の合格に向けてこれからより一層努力をしていきたいと思っています。

今後の予定

【新2年生】

教職課程オリエンテーション

美浜キャンパス 3月28日(月) 4限～5限 1251教室

東海キャンパス 3月28日(月) 4限～5限 S304教室

教職課程登録

3月25日(金)～31日(木) 17:00まで

※教職課程オリエンテーションに出席後、課程履修費の納入及び課程登録を行ってください。

【新3年生】

教育実習手続き(中学校・高等学校・特別支援学校 教育実習内諾依頼)及び介護等体験 説明

美浜キャンパス 4月14日(木) 3限

東海キャンパス 4月14日(木) 4限

※4年次の教育実習校の内諾依頼に向けた手続きについて説明します。

【新4年生】

教育実習手続き(中学校・高等学校・特別支援学校 教育実習直前)及び介護等体験 説明

美浜キャンパス 4月14日(木) 4限

東海キャンパス 4月14日(木) 5限

※教育実習I事前事後指導のクラス・日程については各学部の時間割冊子を参照してください。





生徒の個性を伸ばす授業をめざして

2014年度 経済学部 経済学科 卒業 川村潤子

ある公民の授業で、私は、黒板に「晩婚化」と書き、生徒たちにどのような意味かを問うた。「こんばんは!」、
「夜に結婚すること!」と、元気な男子生徒たちが、間髪入れず大きな声で答える。「冗談ばかり言っていないで」と注意すると、一人の生徒が、「夜に式場はやってないよ。何いってるの」と言う。「ここは、バシッと決めて」と答えを促すと、「夜にプロポーズすることに決まっているじゃないか」と。また、夏休みの課題とした「歴史新聞」(歴史上の人物や出来事の一つだけ取り上げ、新聞仕立てにまとめる宿題)の作成方法について「新聞だから、文字だけでなく、できるだけ絵や写真を書くなり貼るように」と説明すると、「教科書の写真を切って貼ってもいいですか」と真顔で質問をしてくる。「だめに決まってるでしょ!」と私は答えたのだが、夏休み明けに確認していると、どう見ても教科書を切り取ったようにしか見えない写真が貼ってある宿題を発見してしまった。

私は今春から、自分の母校である高校の姉妹校で教壇に立っている。高校時代、いつかここ(母校)に教師として戻りたい、という思いを抱き、大学受験に備え、何の疑いもなく、毎日、机にひたすら向かっていた。平日は1日最低5時間、休日は10時間以上、勉学に励んだ。そして大学に進学して、次は教員免許を取得するために、多くの授業を履修した。しかし、大学1年の春に中国に行ったことをきっかけに、高校時代までの自分の勉強方法が間違っていたと気付いた。それからの私は、中国(8回)・台湾・香港・ポルトガル・イタリアなど積極的に海外に行き見聞を深め、映画(一年間に100本以上)を見たり、読書(1か月に20冊以上)に耽り、さらに、大学の先生をはじめ、友人たちと映画や本について語り合い、議論を重ねてきた。もちろん、教壇に立つようになってからも、この私の生活スタイルに変化はない。むしろもっと多くのものを吸収したいという想いは日々強くなっている。そして、今、私は、愉快的な回答を寄せる生徒たちに接しながら、次のように考えている。

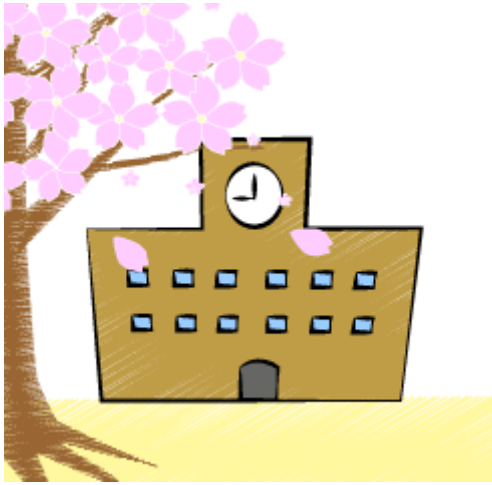
海外での見聞、映画や読書から得た私なりの日本社会像を思い描くたびに、憂鬱な気分が襲われる。例えば、最近、手にした『女性たちの貧困―“新たな連鎖”の衝撃』(著者: NHK「女性の貧困」取材班, 2014)という本を読むと、将来の生徒たちの姿を見ている気がしてならないのだ。若者が社会的弱者になっているといわれる現代の日本社会において、この本に描かれている人たちの姿と生徒たちが、自然に重なり合ってしまう。もちろん、生徒を心配する教師も他人事ではないのだが、ただひたすら勉学に励めば社会的弱者にならないという保障なんでもものはない。

私は、母校の教師に雇われたときに、自分が関わる生徒だけでも机に向かうことだけが勉強でないということを知ってもらいたいと思った。始めに生徒たちの授業の様子を紹介したが、「晩婚化」について大まかな説明をすると生徒たちは、「ああ。それくらいは聞いたことがある」と口を揃える。どうやら、彼らの頭のなかでは、「晩婚化」という言葉(漢字)と、その意味が繋がっていないのだ。実は、ただそれだけのことなのだ。彼らを無理やり黙らせ、上から押さえつけながら、「晩婚化」という漢字とその意味をノートに何度も書かせたとしても、多分、彼らの頭には何も残らないだろう。それよりも、彼らの回路を上手く繋げ、少しずつ新しい言葉の意味を、漫才のような掛け合いをしながら、笑いながら楽しく教えていけたらと思う。とくに、私は、彼らの「素直さ」あるいは「人間的な魅力」にしばしば圧倒される。とくに、人の心の中にスッと入ってくるような人懐こさ(これは私にはない)は、これからも持ち続けてもらいたい能力だと思っている。少なくとも、そうした彼らの優れた能力を大人や社会、そして私が奪い取ることをしてはいけないだろう。在学時代を含め、私はこれまでに4つの高校で授業をしたことがあるが、授業中にこれほど私の言葉に反応し、間違っていようと「自分の考え」を述べようとする高校生を見たことがない。私はそんな彼らを愛おしく思っている。彼らとの授業は毎回楽しくて仕方がない。そして、毎日、私は、大学1年生から少しずつ作り上げている「私の教科書」を時に開けながら、教壇に立っている。その教科書を生徒に切り取ってもらえる先生に、私はなりたい。



2年目の教員生活から感じたこと

2013年度 子ども発達学部 心理臨床学科 卒業 菱田千紘



私は、京都府の支援学校高等部で勤務しています。早いもので、教員となり2年目となりました。京都府での過ごしにも慣れてきました。毎日、とても充実した教員生活を過ごしています。

昨年度は、初めてのことばかりで、毎日不安や緊張の連続でした。「生徒とどのように関わろうか…。授業をどうやって組み立てたら良いのだろうか…。保護者の方との懇談は…。」など、たくさん悩みました。そのとき、周りの先生方にアドバイスをいただき、支えていただきました。一人で解決するのではなく、周りの先生方と一緒に考えることがとても大切であり、大きな力となることを学びました。

今年度は、昨年度よりさまざまな学校行事などに見通しを持つことができ、中心となって進める機会をたくさんいただいています。「こんなことに挑戦してみたい」という自分の思いを持ち、計画することも多いです。そのなかで、昨年度とは少し違った悩みを持つこともありますが、周りの先生方にアドバイスや意見等をいただきながら、少しずつ取り組んでいます。無事、学校行事を終えた後は、達成感を感じています。

生徒との関わりなかで、いつも大切にしていることがあります。それは、「生徒の気持ちに寄り添い、受け止めること」です。そのために、生徒と過ごす時間をとても大切にしています。そのなかで、生徒の発する言葉や行動から、小さな変化にも気づくことができるようにしています。生徒と一緒に、思いっきり遊んだり、笑ったり泣いたりすることも多いです。一緒に遊んでいる昼休みに、生徒から「こんなことが不安で、悩んでいる」といったことなどを聞くこともありました。京都府の理念でもある「包み込まれている感覚」を生徒が感じられるように、生徒との信頼関係を築くためにも、授業だけでなく、授業時間外の昼休みや給食、部活動などの時間も大切であることを改めて感じています。

授業では、生徒が主体的に取り組めるようにしています。生徒の興味関心のあることや自分の生活に近い、より身近に感じることができる導入を考えています。また、生徒が楽しく取り組むことができるように、ゲームの要素も含めた内容も取り入れています。生徒の主体性をもっと考え、授業のアイディアの引き出しを増やしていけたらと思います。

私は、教員生活2年目となった今、大学時代のことや一年目のことをよく振り返り、初心を忘れないようにしています。大学のときに思い描いていた教育とは、少し違うこともあり、とまどうこともあります。上手いかず、悩むこともたくさんあります。そのような時は、大学時代に感じていた教員へのあこがれや「教員になりたい」という熱い思いを思い出し、その目標や思いに向けて、一生懸命取り組んできた自分を振り返ります。大学生の時は、障害のある人の生活や支援についてなど、友達や先輩と多く話をしてきました。そして、「学びたい」という気持ちを膨らませ、さまざまな講演会や学習会に参加したり、ボランティアに行ったりするなかで、さまざまな人に出会いました。その出会いが今でもつながっており、活動の源になっています。これからも、新たな人との出会いを大切に、学び続ける姿勢をこれからも大事にしていきたいと思います。そして、「このようにしたい」といった思いをもっと強く持ち、その目標や思いに近づけるように、たくさんの経験を積み、挑戦していきたいです。

